

やいがい、いきがい、たかがい！～成熟社会を創る看護力～ たかがい 恵美子のマンスリー活動報告

参議院議員 高階恵美子事務所

東京都千代田区永田町2-1-1

参議院議員会館714号室

TEL 03-6550-0714 Fax 03-6551-0714

<http://www.takagai-emiko.net>

桜の開花の便りが聞かれる頃となりました。昨年の今頃は多くの国民が悲しみの渦中にあり、春を感じる余裕もなく季節が過ぎていったように思います。これまで国会において幾度となく被災地の復興について議論してきましたが、政府は復興を加速させる有効な策を打ち出せず、被災地は1年経った今も苦難の中にあります。3月11日に東日本大震災の追悼式に出席させていただきましたが、被災地の皆様方が1日も早く希望を持って前に進めるよう、今後とも力を尽くしていこうと誓いを新たにいたしました。



3月19日 参・予算委員会で質問

3月8日に平成24年度予算案が衆議院より参議院に送付され、参議院の予算審議がスタート。私も予算委員会の質問に立つ機会をいただきました。

今後どのような社会保障制度を構築すべきかについては、重大かつ喫緊の課題ですが、政府は、現状の課題を網羅的に把握しつつ将来目指す姿を明らかにし、そのために必要な社会保障を準備していくという観点が不足していること、国民のコンセンサスを得る過程が不足していることを指摘しました。

今後の社会保障を考えるにあたり、次世代を担う子どもたちが健やかに成長することができるよう「子ども・子育て」施策の充実が求められます。3月2日に「子ども・子育て新システムの基本制度」等がとりまとめられましたが、これを受けた適切な実施体制の整備や財源の確保等を求めました。

また、政府が提案している「社会保障と税の一体改革」は今後どの程度の効果を見込んでいるか問うとともに、政策評価の必要性を訴えました。

さらに、今後の医療を支える観点から看護を業とする医療施設設置のための法的基盤整備を始めるべきではないかと問いました。

また、被災地の看護職の不足に関して、国立病院や防衛省など国の機関が人員を採用し、被災地の医療機関に派遣するD難度の新たな人材投入策を講ずるよう求めました。

その他、科学技術関係について、放射性物質による中・長期生態影響評価に資するために国による調査研究データの一元化管理機能、科学技術関係経費の適切な企画審査を求めました。

3月28日 参・復興特委で質問

東日本大震災復興特別委員会において、福島復興再生特別措置法案の審議が行われ、質問に立ちました。

19日の予算委員会で国の対応を求めた医療職の派遣については、その後、厚生労働省・防衛省において検討いただき、派遣に向けての調整が行われていると答弁いただきました。

また、原子力・放射線関連分野に秀でた国際的にも通用する研究拠点を福島に設けること、それにより国際会議の誘致などを図っていくことを提案しました。

その他、子供たちへ放射線に関する教育の充実を図ることとして、学校給食を通じた食育の推進、他県の子供たちが原発事故がもたらした苦難などについて理解を深め、将来にわたって支えあえる教育プログラムの提供について提案しました。

さらに、福島を放射線治療の先端技術の研究開発及び治療拠点とすることについても提案しました。

3月29日 参・厚労働委員会で質問

厚生労働委員会において、児童手当法一部改正法案の審議が行われ、質問に立ちました。

子ども手当の相次ぐ制度変更により、国民の混乱を招いたことに対する政府の反省の弁を求めるとともに、地方自治体におけるシステム改修や事務経費などに要した無駄になった経費について指摘しました。また、年少扶養控除廃止に伴う負担増の早急な解消を求めました。

その他、子どもを巡る課題として、児童虐待防止法の改正も含め児童虐待防止の効果的な対策を講じること、看護師の分娩介助に係る通知の解釈の確認、産科領域の医療人材の確保及びサービス提供体制の再整備を求めました。